

常なる磐

つねなる いわ

令和2年9月18日(金)号

◇ 求めて はげむ② 【常磐東小学校 校訓】

校内にある2枚の石板校訓【求めて はげむ】。

1枚は、校門階段上方にある平成4年度の6年生から贈られた卒業記念品。もう1枚は、児童昇降口横にある昭和47年建立の同窓会発会記念石碑。両者に共通するのは、黒御影石に刻まれた書体で、時代をまたいで受け継がれたと考えられる。2つの石板校訓【求めて はげむ】に、新旧同窓生の思いが宿るのだ。

前号でも触れたが、校風は受け継がれているのに、児童が校訓を気にかけていないのはあまりにさみしいということで、手を打つことにした。

とはいっても、言葉で伝える方法では、時とともに記憶は薄れ、やがて言葉は消えていく。しかも、言葉の伝達は、あくまで話し手が主体で、聞き手は受け身。児童が主体的に捉えるいい手はないものかと思案した。

手法は、下の全景写真のとおり。

◆校門階段上方



◆児童昇降口横



お分かりだろうか？ 石板彫刻文字の再塗装である。

◆校門階段上方(平成5年以来 27年ぶり)



◆児童昇降口横(昭和47年以降 初塗装)



校内石板の再塗装は、これが初めてではない。正門の校名と西門の校名の再塗装を行っている。

手前味噌になるが、納得のいく出来であるとともに、学校の顔が引き締まったように思えた。

つまり、【はげんだ】成果が見えたのだ。

すると、次は何をやろうかと考える。そう。次を【求めた】わけだ。気付かぬうちに【求めて はげむ】。これである。

そして、次は何をやろうかと、新たな思案中。

さて、子どもたちは、どうとらえただろうか。しばらく、そっと見守ろう。

